

学校だより

東京都立北特別支援学校

令和7年 2月28日発行

3月号

副校長 小嶋 耕

令和6年度も、残すところひと月となりました。まだまだ寒い日が続いておりますが、段々と日が伸びて春の訪れを感じさせる季節となってきました。

年度末が近づき、子供たちの成長を振り返る時期となりました。皆様には日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、2月6日（木）に全国公開授業研究会が行われました。全国から学校や企業等の多くの参加者に来校いただきました。各部門、学習グループごとにテーマをもち、実践を通して研究を積み重ねてきたことを発表しました。肢体不自由教育部門、Aグループは『国語・数学（算数）の「生活年齢に沿った題材」と「児童・生徒に応じた指導内容」の整理』というテーマで、児童・生徒の実態に応じた課題設定と、教材・教具の提示ができるよう実践を重ね記録カードを作成し、それを効果的に活用することを行ってきました。B・Cグループは、作業学習などの授業を通して将来的に社会参加するために「ひとりでできる」ことを目指した指導の研究に取り組みました。在宅訪問教育では、訪問教育独自の課題である「引継ぎの難しさ」をテーマとして、訪問時に持ち込む教材について教具の工夫などが書かれた「授業カード」を作成しました。訪問教育の特徴的な授業をイメージし、補助具や教具などの準備に役立てていく研究に取り組みました。病弱教育部門では、「生き生きとした学び」をテーマにして、入院加療中の児童・生徒の学習意欲を高めるために、授業を担当する多数の教員が多面的に児童・生徒一人一人の特性と課題を検証していきました。そこから出た一人一人の長所や強みを手掛かりにして、個別性を生かした授業・支援方法の研究に取り組みました。

授業研究は、教員が自分の授業を振り返り、改善点を見つける良い機会となります。授業研究には大切な意味があります。児童・生徒一人一人の実態に応じて、教育的ニーズは異なります。教職員は、児童・生徒一人一人に合った指導・支援方法を見つけ、日々の教育に生かしています。教職員一人一人が振り返りと改善を繰り返すことによって、学校全体の教育の質が向上し、児童・生徒の学習の成果が向上します。そして、教育現場は進化し続けます。研究会を通じて、外部の助言者、参加者から様々な指導・支援方法を吸収し、授業に取り入れることもできます。これにより、学校全体の授業力が向上します。より良い教育環境を提供することで、児童・生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすことができるようになります。

今後も本校の児童・生徒一人一人の個性を大切に、もっている力を伸長できるよう、指導・支援をしていきます。授業研究会の日は、下校時間を短縮するなど、保護者の皆様には御協力をいただき、感謝申し上げます。今後とも、児童・生徒の健やかな成長を支えるために、教職員一同努力してまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

学校だより別紙

全校スポーツ大会報告

1月30日(木)に全校ボッチャ大会(North Cup)を実施いたしました。各学年のチームカラーを存分に発揮して、各児童・生徒が自分の力を出し切れるよう一生懸命に取り組んだ大会となりました。大会では、予選の得点結果でグループ分けをし、学部関係なくボッチャを楽しみました。教職員も一緒になって結果を楽しみながら参加し、児童・生徒が、成功や失敗を感じながらプレーする様子を微笑ましく感じた大会開催となりました。肢体不自由教育部門と病弱教育部門・東大こだま分教室と一緒に競技に取り組むことができたことは、児童・生徒にとって全校でのつながりを感じられるよい経験となり、教職員にとっては、児童・生徒の新たな一面を垣間見れた、発見のある行事となりました。

大会の中で印象的だった場面は、児童・生徒がルールに則り、教職員とフェアプレーを全うし取り組んでいたことです。自分が選んだ投球方法、方向、病弱教育部門・東大こだま分教室は、角度(方向、高さ、ボールを置く位置)など、言葉などで教職員に伝えながら、真剣に取り組んでいました。

肢体不自由教育部門と病弱教育部門・東大こだま分教室の児童・生徒が互いの頑張りを讃えることだけでなく、児童・生徒の交流を図ることができた大会となりました。



ハンドサッカー大会報告

2月15日(土)は、ハンドサッカー大会が都立花畑学園にて開催されました。初めての都立特別支援学校を会場とし、東西2会場に分かれた開催となりました。

スポーツクラブでは12月から練習を行い、今年度は他校や卒業生との練習試合など、実践経験を重ねてきました。昼休みには自主的に集まり生徒同士で声を掛け合って練習をするなど、大会に向けた意識や向上心の高さが日々伝わってきました。

大会では、桐が丘・新宿・永福の合同チームと対戦しました。最初は緊張からか動きに硬さが見られましたが、御家族の皆様などの応援もあり、次第に動きがよくなりパスが回るようになりました。相手チームの強力なディフェンスに苦戦しましたが、苦しい状況でも諦めずにパスをつなげ、シューターの選手にボールを渡すことができました。2試合とも惜しくも敗れてはしまいましたが、何としてでも味方同士でつないでシューターにパスを回したいというフィールドプレイヤーの選手の気持ちが伝わるプレーが見られました。シューターの選手には、いつもと違う雰囲気のある会場であっても練習の成果を発揮しようとする姿が見られ、チームで声を出してフィールドプレイヤーの選手を応援したり、ボールを呼んだりチームが一丸となって試合に臨むことができました。

スポーツクラブの活動に御協力いただいた皆様、ありがとうございました。引き続き、本校のスポーツクラブへの御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。

図書室より



☆たくさんの御利用をありがとうございました。

今年度も、多くの児童・生徒が、図書室や図書コーナーの本を利用しました。今年度は、正面玄関前に、バリアフリー図書を紹介する「リンゴの棚」を新たに設置しました。現在、公共図書館でも、バリアフリー図書についての理解が広がっています。次年度、児童・生徒には、たくさん読書に親しんでもらえたらと思います。

☆図書の御寄付をいただきました。

一般社団法人日本子どもの本研究会様より、今年も30冊を超える児童・生徒向けの図書を御寄付いただきました。新しい本は、子供たちや教職員にも人気です。

選書は、本校学校図書館支援員の近藤司書によるものです。特設コーナーに設置しますので御覧ください。



☆読書マラソン表彰！

3学期の読書マラソンで目標を達成したグループを、3学期の修了式で表彰します。

1階の図書室や2階の廊下壁面に掲示している「読書マラソンカード」前で、1月末で既に「達成」のマークを貼っているグループもありました。読書週間が定着してきていることに喜びを感じます。

次年度も、いろいろな働き掛けで、子供たちが読書に親しむ取組を工夫していきます。

☆読み聞かせ会

今年度も、毎月隔週火曜日に、学校図書館支援員の近藤司書に、読み聞かせ活動や学校図書館の整備をしていただきました。新たに、図書ボランティアとして鈴木さんにも一緒に活動いただき、絵本と読み物図書の読み聞かせの他、ブックトーク（本の紹介）や手遊び、歌遊びなども取り入れて、児童・生徒も教職員も共に、読書に親しむ、和やかな良い時間を過ごすことができました。

次年度も、読み聞かせ会をはじめ、児童・生徒が、読書を通して、新しい本や人と出会い、世界を広げられるような機会を作りたいと考えています。

保護者の皆様も、お子様の読まれた本を、御家庭でも一緒に楽しんでいただけたらと思います。



☆本の貸し出しについて

春期休業中は、学校図書館からの図書の貸し出しは行いません。新学期を迎える前に、蔵書点検を行いますので、3月14日（金）までにお返してください。